

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191400015		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームふしみ(1階 ハッピーユニット)		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町上恵土333番地		
自己評価作成日	令和元年 8月15日	評価結果市町村受理日	令和元年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JgvosvoCd=2191400015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JgvosvoCd=2191400015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和元年 9月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様がご自分で行える事はご自分で行い、出来ない部分のみ職員が支援し、自立支援に努めております。  
 ご利用者様の日々の生活における自由と選択の権利を尊重して、その人らしい快適で穏やかな日々を送れるようサポートさせて頂いております。  
 また、オリジナルの体操や歌を歌ったり、舞踊・三味線・サックスなど各ボランティア様に協力して頂き、行事や娯楽内容を充実させ、ご利用者様の日々の生活に笑顔が絶えないホーム作りを心掛けております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの方針として、職員や利用者の毎日が笑顔の絶えない暮らしが送れることを目指している。職員も方針をよく理解しており、利用者が自分で出来るように、出来ないことを支援していく中で笑顔を引き出せるよう努めている。外出支援に関しても利用者の状況に合わせた適切な支援を提供するように努めている。日常生活支援に関しては、利用者本位の目線を持ち、尊厳や羞恥心・プライバシーに配慮しており職員が相互に注意しあいながら業務に当たっている。  
 事業所として地域との交流機会を持てるように自治会にも加入し、地域の行事への参加や夏祭りの開催・清掃活動への参加や舞踊・三味線やサックス演奏などのボランティアの受け入れを通じた前向きな取り組みがある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「日々、安心して生活できる環境作り」を掲げ、認知症を患っても、地域の中で安心して生活出来る事業所を目指している。	理念を基に、笑顔で笑いのたえない暮らしを独自のテーマとし、自立支援に向けての取り組みに繋げている。理念を定期的に唱和している。10月以降になるが新理念が策定される予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア等(フラダンス・カラオケ・紙芝居・踊りなど)の積極的な受け入れを行っている。又、11月より隣りの公民館の清掃を始める。ご利用者様と一緒に来年の認知症カフェ開催に向け、体操を行ったり、他ホームの認知症カフェに参加している。	自治会に入会しておりホーム夏祭りの際には、20名くらいの方の参加がある。公民館を借りて、会議など実施していることもあり清掃も定期的に行っている。集まりどころのカフェを計画おり、ボランティアも1回/月以上の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は運営推進会議を利用し、認知症の方の生活の様子や事例発表等の事業所の取り組みを伝え、理解をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の様子をお伝えすると同時に、ボランティア、民生委員、居宅等を含め地域の方々からも意見を頂いている。	民生委員や行政より5~6名程度の参加があり、2ヵ月毎に開催されている。身体拘束や虐待についても議題として意見交換し、現在のホームの様々な取り組みについての報告もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼、定期訪問による情報交換を行っている。	介護保険更新時期には、長寿保険課の担当者と現状の報告および情報交換を行っている。運営推進会議にも参加して頂く事で、職員や利用者との交流も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束を行わない工夫をし、定期的に身体拘束に関する内部研修を行っている。座学だけではなく実際に疑似体験をして好まないケアを受けた時の気持ちをすることも行っている。	2ヶ月に1回のペースで研修を行い、職員も実際にロールプレイを行っている。スピーチロックにも気を付けている。職員が見守り出来る時は、鍵をかけずに対応している。安全面に配慮して、自由な暮らしが出来る様に心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束と併せて研修を行い、日常的に虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修似て定期的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には十分に時間をかけご理解頂き、入居後も随時ご相談を受けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に随時ご家族様とのコミュニケーションを取り、ご利用者様の現状をお伝えし、ご家族様の要望の聞き取りに努めている。 年に1回ご家族様アンケートを行い、率直な意見を聞き取り運営に反映させている。	家族アンケートを実施している。面会時に、意見を言いやすいように環境作りに努めている。家族から出された意見は、会議で話し合い、日々の業務に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年一回の職員アンケートを実施している。また、日常的なコミュニケーションの中からも意見や提案を反映出来るように努めている。	職員のアンケートを実施すると共に不適切ケアチェックシートもあり活用している。パート職員にも意見を聞いており、管理者は職員の要望や意見を日頃から聞く様に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートに加え、随時現場職員からの提案を受け付け、月に一回ミーティングの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に加え、外部研修参加への積極的な支援、資格取得に対しての補助等もある。職場内でも知識となるよう、その場に応じて助言・指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、御嵩町のケアリンク、定期的に近隣事業所へ訪問をし情報交換を行い、地域ケア会議に参加し、他同業者との意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人様との面談を行い、ご家族様や関係者からも情報をもらい、初期プランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのご相談にはしっかりと耳を傾け、不安やご苦勞を取り除けるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様・関係者からの情報収集をしっかり行ったうえでサービスの導入に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事は極力ご自分でしてもらい、事業所側は出来ない部分の支援を行う、又生活の中での役割を持っていただけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な連絡を利用し、ご家族様との関係を良好に保てるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があればご家族様にご協力頂き馴染みの場所への外出機会を設け、面会時はご本人の状況を報告し、面会に来やすい雰囲気を作り、関係が途切れない様に努めています。	昔の友人が面会に訪れ、雑談をしていくこともある。自宅に帰りたい利用者には、家族の理解および協力を頂き、実現している。関係が切れないように継続的に交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないように職員が関係性を把握し、職員から関わりを仕向けたり、両ユニットの利用者様の交流も出来るようレクリエーション・行事等を合同で行い、利用者様同士の交流の機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはご家族様の不安を取り除く様、今後についての話をしっかりとし、退去後についても機会を見て、近況の確認等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションの中からも本人様のご希望や意向をくみ取るように努め、ケアプランに反映している。疎通不可な方には本人本位であるようご家族様にも相談し、了解を得てケアプランに反映している。	日常的なコミュニケーションから、思いや意向を聞き出すようにしている。毎日の記録、介護録にも残すようにしている。言葉や表情などからその意思を、それとなく確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントだけではなく、入居後についてもご家族様面会時等に継続的に情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的なコミュニケーションの中からも得た情報をもとに職員間で共有し、ケアプランへの反映に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを利用し、ご本人様に合ったケアプランとなるよう努めている。また、カンファレンスへの参加が難しいご家族様に関しては事前に意向の確認を行っている。	自立支援に向けて、定期的カンファレンスを開催している。職員個々にごとに担当を決めている。アセスメントを含め、職員全体で意見交換やモニタリングを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を見逃さない様に記録に落とし、職員間で情報を共有し日々のケアやケアプランの見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的に関係者との情報交換や、他社他事業所の事例を共有する等して、既存のサービスに捉われない様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のアセスメントやご家族様からの情報収集を行ったうえで、地域との交流を大切にし、利用者様が地域資源を活用しやすい環境を作れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に等ホームの主治医の説明を行い、かかりつけ医を選択して頂いている。また入居後の救急搬送先の確認も行っている。	ほとんどの利用者は協力医を主治医としている。看護師の訪問も週1回ある。緊急時や必要に応じて、電話の対応も協力医が行っている。家族にも緊急時の対応について合意を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは情報共有をしっかりと行き、医療との連携を図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的なお見舞いをし、退院に向けての調整・対応について病院と連携し、入院時のみならず定期的にお見舞いへ伺うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向を確認しながら、終末期をどこでどのように過ごして頂くかを期を見て相談している。又、重度化する前に将来的予測を行い、ご家族様に説明しホームとして出来る限りの支援を行っている。	現時点、看取りケアをおこなっていない。今後、医療体制を検討しながら、家族の意向など確認したうえでホームとして可能な範囲で実施していく用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに指導を行っている。またAEDの導入に伴い、管理者他応急手当普及員講習を受講し救急救命講習を順次定期的に行えるようになった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの消防訓練(昼間・夜間)や地震・水害等の有事に備え実施。また運営推進会議でも、地域の方のご協力を頂けるようお伝えしている。地域の福祉避難所となっている。	ハザードマップ上では災害の想定がない。火災、台風、地震に備えている。停電の際の備えをしている。消防避難訓練を定期的に実施している。地域との相互協力関係構築のための取り組みもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーには配慮した言葉掛けを行っている。	接遇研修が実施されており、プライバシーの配慮に対しての意識もあり、トイレでの排泄の際に、ドアの開閉も慎重に行っている。まず本人の気持ちを大切に考えて自己決定しやすい言葉かけをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に気を配り、ご本人様が自己決定の出来るよう言葉掛けを行い、支障のない限りは実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大切にし、ご利用者様の希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容には気を配っている。 特に女性入居者の方には化粧や小綺麗な洒落が出来るよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事の準備の段階から手伝って頂いたり、片づけをして頂き食事の時間が充実するよう努めている。	調理担当の職員も配置している。玉ねぎの皮むきなど利用者と一緒にすることも。行事食、誕生日のイベントでケーキを作ることもあり、職員も同じテーブルを囲んで楽しく食事できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの健康状態に合わせ食事での栄養摂取に くい方には医師の指示のもと栄養補助食品での栄養の確保や、水分量の確保できない方は好まれる飲み物で無理なく水分量を確保し、義歯の調整等を行うなどし、それぞれに合わせた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、職員の声掛け見守りのもと、まず自己にて口腔ケアをし、不完全の方にはその後職員が仕上げ磨きを行っている。 歯科医と話し合いながら口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを知り利用者様の行動を観察しその時の状況に合わせた声掛けやトイレ誘導を行い自然な排泄を心掛けている。リハビリパンツから布パンツへの移行を考慮する様努めている。	リハビリパンツから、布パンツ、尿パッドに変更になった利用者もいる。個人の状況に合わせて、トイレ誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとって頂いたり、食後にヨーグルト・乳酸菌を摂取、体操にて体を動かす等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく入浴をして頂くようご本人様の意向を尊重し、気分が乗らない時は次の日へ見送ったりする配慮をしている。	週2回、入浴できるように支援している。浴槽が深いこともあり、浴槽をまたぐ際には、十分な注意が払われている。菖蒲湯、柚子湯など実施しており、1番風呂を希望される利用者への対応など個々に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の気分・体調等をよく観察し必要に応じて横になる時間を長くする等の工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアーに薬情等をファイルし常時確認可能であり、病状・処方変更時は申し送りを行い、看護師、薬剤師にいつでも相談できる環境づくりに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様に合わせた役割・レクリエーションや行事等で気分転換を図り、張り合いのある生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、、いちご狩りを年間行事とし、ご利用者様、可能なご家族様、スタッフで出かけている。定期的に遠方のご家族のもとへ出かけられている方もみえる。	恒例の行事としてイチゴ狩り、花見など毎年、実施している。お墓参り、喫茶店など利用者からの希望による外出にも対応している。利用者の状況により安全に配慮し車椅子を使用することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所でお金の管理を行っているが、ご利用者様と一緒に買い物に出かける際はご本人様に所持をして頂く様工夫していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は電話をして頂いている。ご家族様にも事前にご理解頂けるよう努めている。 月に一度ご家族様へ自筆の一文をホームからの便りに添えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様がそれぞれの場所でくつろげるよう、各々にソファを設置し日中思いのままの場所で過ごして頂き、季節の装飾を施している。	リビングも広々している。ゆとりのある空間がある。写真、習字、季節感のある貼り絵など掲示している。掃除も職員が交替で行っており、清潔な状態が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて座る位置を変更するなど行い、臨機応変に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、極力馴染まれたものを持ち込んで頂けるよう努めている。	比較的スッキリした居室が多く、安全面に考慮した工夫をしている。利用者本人の習字の作品や、写真など自由に掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しの配慮で自立した生活が送れるよう工夫し、ご利用者様の安全な生活しやすい場となるよう常に工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191400015		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームふしみ(2階 スマイルユニット)		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町上恵土333番地		
自己評価作成日	令和元年 8月15日	評価結果市町村受理日	令和元年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2191400015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2191400015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1
訪問調査日	令和元年 9月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様がご自分で行える事はご自分で行き、出来ない部分のみ職員が支援し、自立支援に努めております。  
 ご利用者様の日々の生活における自由と選択の権利を尊重して、その人らしい快適で穏やかな日々を送れるようサポートさせて頂いております。  
 また、オリジナルの体操や歌を歌ったり、舞踊・三味線・サックスなど各ボランティア様に協力して頂き、行事や娯楽内容を充実させ、ご利用者様の日々の生活に笑顔が絶えないホーム作りを心掛けております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「日々、安心して生活できる環境作り」を掲げ、認知症を患っても、地域の中で安心して生活出来る事業所を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア等(フラダンス・カラオケ・紙芝居・踊りなど)の積極的な受け入れを行っている。又、11月より隣りの公民館の清掃を始める。ご利用者様と一緒に来年の認知症カフェ開催に向け、体操を行ったり、他ホームの認知症カフェに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は運営推進会議を利用し、認知症の方の生活の様子や事例発表等の事業所の取り組みを伝え、理解をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の様子をお伝えすると同時に、ボランティア、民生委員、居宅等を含め地域の方々からも意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼、定期訪問による情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束を行わない工夫をし、定期的に身体拘束に関する内部研修を行っている。座学だけではなく実際に疑似体験をして好まないケアを受けた時の気持ちを知ることも行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束と併せて研修を行い、日常的に虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修似て定期的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には十分に時間をかけご理解頂き、入居後も随時ご相談を受けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に随時ご家族様とのコミュニケーションを取り、ご利用者様の現状をお伝えし、ご家族様の要望の聞き取りに努めている。 年に1回ご家族様アンケートを行い、率直な意見を聞き取り運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年一回の職員アンケートを実施している。また、日常的なコミュニケーションの中からも意見や提案を反映出来るように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートに加え、随時現場職員からの提案を受け付け、月に一回ミーティングの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に加え、外部研修参加への積極的な支援、資格取得に対する補助等もある。職場内でも知識となるよう、その場に応じて助言・指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、御嵩町のケアリンク、定期的に近隣事業所へ訪問をし情報交換を行い、地域ケア会議に参加し、他同業者との意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人様との面談を行い、ご家族様や関係者からも情報をもらい、初期プランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのご相談にはしっかりと耳を傾け、不安やご苦勞を取り除けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様・関係者からの情報収集をしっかりと行ったうえでサービスの導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事は極力ご自分でしてもらい、事業所側は出来ない部分の支援を行う、又生活の中での役割を持っていただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な連絡を利用し、ご家族様との関係を良好に保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があればご家族様にご協力頂き馴染みの場所への外出機会を設け、面会時はご本人の状況を報告し、面会に来やすい雰囲気を作り、関係が途切れない様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないように職員が関係性を把握し、職員から関わりを仕向けたり、両ユニットの利用者様の交流も出来るようレクリエーション・行事等を合同で行い、利用者様同士の交流の機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはご家族様の不安を取り除く様、今後についての話をしっかりとし、退去後についても機会を見て、近況の確認等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションの中からも本人様のご希望や意向をくみ取るように努め、ケアプランに反映している。疎通不可な方には本人本位であるようご家族様にも相談し、了解を得てケアプランに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントだけではなく、入居後についてもご家族様面会時等に継続的に情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的なコミュニケーションの中から得た情報をもとに職員間で共有し、ケアプランへの反映に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを利用し、ご本人様に合ったケアプランとなるよう努めている。また、カンファレンスへの参加が難しいご家族様に関しては事前に意向の確認を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を見逃さない様に記録に落とし、職員間で情報を共有し日々のケアやケアプランの見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的に関係者との情報交換や、他社他事業所の事例を共有する等して、既存のサービスに捉われない様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のアセスメントやご家族様からの情報収集を行ったうえで、地域との交流を大切にし、利用者様が地域資源を活用しやすい環境を作れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に等ホームの主治医の説明を行い、かかりつけ医を選択して頂いている。また入居後の救急搬送先の確認も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは情報共有をしっかりと行い、医療との連携を図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的なお見舞いをし、退院に向けての調整・対応について病院と連携し、入院時のみならず定期的にお見舞いへ伺うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向を確認しながら、終末期をどこでどのように過ごすかを見て相談している。又、重度化する前に将来的予測を行い、ご家族様に説明しホームとして出来る限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに指導を行っている。またAEDの導入に伴い、管理者他応急手当普及員講習を受講し救急救命講習を順次定期的に行えるようになった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの消防訓練(昼間・夜間)や地震・水害等の有事に備え実施。また運営推進会議でも、地域の方のご協力を頂けるようお願いしている。地域の福祉避難所となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーには配慮した言葉掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に気を配り、ご本人様が自己決定の出来るよう言葉掛けを行い、支障のない限りは実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大切に、ご利用者様の希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容には気を配っている。 特に女性入居者の方には化粧や小奇麗なお洒落が出来るよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事の準備の段階から手伝って頂いたり、片づけをして頂き食事の時間が充実するよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの健康状態に合わせ食事での栄養摂取しにくい方には医師の指示のもと栄養補助食品での栄養の確保や、水分量の確保できない方は好まれる飲み物で無理なく水分量を確保し、義歯の調整等を行うなどし、それぞれに合わせた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、職員の声掛け見守りのもと、まず自己にて口腔ケアをし、不完全の方にはその後職員が仕上げ磨きを行っている。 歯科医と話し合いながら口腔内の清潔に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを知り利用者様の行動を観察しその時の状況に合わせた声掛けやトイレ誘導を行い自然な排泄を心掛けている。リハビリパンツから布パンツへの移行を考慮する様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとって頂いたり、食後にヨーグルト・乳酸菌を摂取、体操にて体を動かす等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく入浴をして頂くようご本人様の意向を尊重し、気分が乗らない時は次の日へ見送ったりする配慮をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の気分・体調等をよく観察し必要に応じて横になる時間を長くする等の工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアーに薬情等をファイルし常時確認可能であり、病状・処方変更時は申し送りを行い、看護師、薬剤師にいつでも相談できる環境づくりに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様に合わせた役割・レクリエーションや行事等で気分転換を図り、張り合いのある生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、いちご狩りを年間行事とし、ご利用者様、可能なご家族様、スタッフで出かけている。定期的に遠方のご家族のもとへ出かけられている方もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所でお金の管理を行っているが、ご利用者様とご一緒に買い物に出かける際はご本人様に所持して頂く様工夫していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は電話をして頂いている。ご家族様にも事前にご理解頂けるよう努めている。月に一度ご家族様へ自筆の一文をホームからの便りに添えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様がそれぞれの場所でくつろげるよう、各々にソファを設置し日中思いのままの場所で過ごして頂き、季節の装飾を施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて座る位置を変更するなど行い、臨機応変に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、極力馴染まれたものを持ち込んで頂けるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しの配慮で自立した生活が送れるよう工夫し、ご利用者様の安全な生活しやすい場となるよう常に工夫している。		